土佐日記

全

土佐日記

貫之延長八年任土佐守兼平四年ノ五年ノ任限海て京ふ帰らるゝ時の南海紀路の日記なり

をとこもすなる、抄を点手といふを日記といふ物を女もてあり附属ぶのとゝ

ものかくなりとゝ書たらへる師の古る記得ナ共是又定今集ニ定後ニ文彦康十二月の廿日あまり元と日の日乃いぬの時ふかどでた

ふ叶の小舟に町の五のそ一こゝとよ一こゝ

手をとり出だらふ之も

ゆくゝと八仏去のて去を

さてていふん

解曲をとゝると鏡物ゝ

ゆて初解曲使とゝ上ゝ

より解曲味とゝふゝとゝ

こうんとてする乃ゝ、抄者てこゝろゝとて

とあり附属ぶのゝ

社

いざゝ相ふかきけく、ある人ゝ

みとせをてゝ仏のたゝでもゝこゝを

とて、ゝ

ゝ

ゝ

[illegible]人今毎度和の清金
月[illegible]をとるらん

[illegible]

人々なん附とをぢるべしらぬおんなどーけれ年はよくぢーけれ
[illegible]人々なん　[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

世の無ものとなるらんを　廿四日、講師うの分の名ばかりにいてませり（附記日うまのそばに）
きてさて講師をおきて
あ中の修院の目ともなり　ひけにいまとあり　枝今のこと
殺しせ給たらん
たぬものしれぬこをあり
みれの字をとれやふしてぞあそび
さまあり　はれの
文ふもえぬいとまれ　廿五日、雪のたちまち、呼よみとてきこえ（枝きこえとあり）附今のこと
とかなるべきの
猫をあらためよけれていきて（枝まいりてとあり）附今のこと　日　れと日、枝れとよとかく
守こ廿三こかをふ新任
の工修守人後とし来矢
うこ
あそぶやうにてゆる名と（附うまかすあれとやうそとあり枝まいりの）
ばかりもてあり　廿六日、狩かしはたちあて（枝たちまてゆるふ附ふまあるまいりあるまいりの）あそぶ

あて（附ふあるまいりあるまいりとあり枝今のこと）、印あるこに（枝ものこらまてに附印なるまて
ふとあるまいりのこと）
物の子いきぬそるまるとつけ　ねうけたる、かくこと　ものあそびいひ名と、まこころりて附こ
こまきて今りはこん　ふあまてとあり枝今
のあいまていとこ別とうやう　やはこと、あるこ、ものこ　あるこ、ものこ、まらうこもかと人と、いとあ
こいたるあるふへーたよ
かれるおいあへこと
八日、附ふまいりとあり枝のこと　かりこ、ものこ、ものまるかて（枝れるえかあるこ）
附ふまいりのこと　やあるこ、あるこ、ものよあるこ
ものこ
ものこ
もの

[illegible]ふ、たと人をのもるられどさらにさもなる

べーとかくいひて、おれやるも今はいとかなしかりて

さびのもいかはせ、[illegible]今のあるさまにまたのもとあり附今さまに毛取らはてあれど

ふんしまげるまに[illegible]そ、いておたり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かゝり附校正ス

鄙ことゝ〳〵おびきこゝ

大湊をたてゝおふと云へ共八日、うら戸よりたゞいそぐ、大湊をたゝふ宮ゐ所、そや
きを貼さる人さてゝ
やくとゝふべきを知さ所ふ共
きこえぬ事なれど拡
幼遊風を仕て好事
掘ゐるどの方てゝおふこと
もてゝ

くのもれる山午岑さけきをのこも見て拡ふ
めくらふ
いきたるとゝ、ゆくしゝ、ふるとゝへて屠箱
ゝ

つゝかくの子と云ふこゝろの
の工作ちからこゝ人のる
べ

九月大湊と百姓と、ふるとゝへて屠箱
散さけくをへてきてどんこゝあふ仰ゝ
ありて陳ふ仕ゝ

貢ゝ
べ

百姓、白数をあるその相性
とて、あやゝとおさ

ゝをさめゝ
ゝ

猛方云坂田先ゝ抗選考
又今行べ

坂田先ゝ抗選考
抗いもゝ
るべ
脇或十二月元猪王経
長供養料ゝ

海ふいまして、えの分ばなりぬ、芋もあ先、えゝ
抗いもゝ ありありもてゝ
ゝ
附年ゝ
坂田先ゝ
ゝ
ゝ

三月、都にて、[illegible]みの形をしたる[illegible]

[illegible]やあんんんのと[illegible]

[illegible]

[illegible]

いさけどもガーの返れる

させませんかとのやうに

とん

[illegible]

わひ[illegible]

[illegible]

[illegible]

南[illegible]

いろへうど

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六日、きのふ[illegible]

七日、[illegible]

四[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きてはさことりてん

まてよ年さへ（附もとこの月いでたり中ごろ中ごろとなり秋冬の比）波たちさへて氷ゐる

あをんとしよみてやいかにこゝを思ひて（附まことの出てとる秋の比）

世の中にてはあるべし（附秋はほりけるとあり明るやり秋のこと）ある人のよめる

月の流るゝしらなみあるのこゝろ（附やの二字秋のこと）

海おぢりなるとやる

はるかに大海をいとなる月日たゝて大海よりしぼのと雪りをおをんそ、

次は二の日の午朝をいふなり

なを午朝のこと人なるべし

しらくもそ

こきいそきり、これをきたりしのさひのうちはとて

あかつきのこゝろ、つゆきこゝろのうんひくりにくる人、あるこゝろ中（附まことをあはれかりめ）義ふ字実

句なり

橘季衡、長谷部彦明ら、秋の比、（秋素及人の二字五字附あるをもとにしたがひ）たちうい

門素にまひくる次の日人

で始し日まと、秋はるゝとあり（附素いまのことり）

秋はうゝ

まで、なをはと用ひ法のく

だりしげれいるきそき

ふきき

深きんさし八代海を始めとして見き合ふ八

なれてもくれぬ

をくんとてで式人ぶ八ぶ和ける

ゆくて、こまるく方に、あれはりまと言れる人も（附素とば）

まる人とあり

秋今の如

をくる形ぬ、秋の人を、元元で那りぬ岸まい

あれば、たりられよりあるる文

さうもたりこまるめべと

きんべ

ふ津あべし、秋まで思ふとあまとひをかれど

代のもと物どおりてやぬ、

思ひやるこころは海をこえぬれども　形見は
なほすやあるらん（附ふるさとの梅のかげ）かくて宮多雲寺を経
ぬ　桜のもとにいとそぞろいとせはしくこりとも
ずをとをとに限りなせ　枝どに鶯のとびちがひ
いふ百じ
飛ハ梅とりかとをもあハ
舟ゆ後人をいふ舟人のこと
ふしとゝるを（ふして）松人のよをとるこゝの
こゝ世ハ桜のうきをにすも隠岐のをちとで
思ふ毎ふ原ふ　やはの八方をこゝに来ぬ　かくあ
ふをこゝ作ゝこゝ　こゝ　（附やはにあり　桜本今の山も海ゝ）

てけ天気ゆ雲ゝ出て
いかりしに根ハ
方ゝ
きかふ
ゝ
（附ハ根ハ）
ゝ
ゝ
ゝ

くふうん、はんでとめんのきよ
きくべし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]に、[illegible]

やうにとゝのへて、名をなのらんとて、[illegible]

[illegible]ばとゝぶらこそ

[illegible]男も女もいでとく

[illegible]あれば、[illegible]

げにとゝぶて、人[illegible]

[illegible]のついでゝ、[illegible]

[illegible]時、[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

えぬ月つゐ人これハ西行の
歌一さて女なれば行のうた
ムをもそのれ女房一ふ
さる人とゝ思ひきり

又ある人のもとに

水海の月のゝ人ゝとゝぐ丸棹よさ
ゝ日ゝ下るべし、これをきゝてある人のよめる

はるゝ海ぶ月をとゝある人ゝの言葉ゝ
ゝ

はるゝ海ぶ月をとゝ
ゝ

ゝ

ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今は昔、[illegible]
とあり 拾今の詞 山のえもあてあのあのもそいてくれ
おうやうあるをとこてやあり 拾今の詞 むかし、安倍仲麻呂
ありける時とあるべきんといひける人はもろこしにわたりて、帰てきこころ時に船に
あふべきにあらで、かの純國人ども、あまたもとめけれども
えてかこのかうこ侍らじとて、[illegible]
[illegible]やあり[illegible]人 拾今の詞 あるの[illegible]やおかしえん
とあり 拾今の詞 廿日の程の月、いでるまで
[illegible]なりける、[illegible]月はあるとて、[illegible]
[illegible]の国にうち[illegible]神代より神もよんだび

氏命五[illegible]天の子とある
まそれより廿余年のち[illegible]
し人のもれなる氏日[illegible]
ふるはたちとふ[illegible]
とあるえを場の人[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世買きれふ乃ゐあ下一わゝり

世ゐ日、ゐぢとゐとのゐれあ一と以ば紙ぬくされ海そく

ゐひくとゐゆ絶をきゐ

世六日、まをにやあゝん海そくゐあと以ば行ゐのえゐゐ紙

をいさーてごきくるゐゐふくゆ面ゐゐあり、椎ゐりーてぬさ

たゝゆまをゐふぬゆこの糸へちれば椎面の方をーたゝ方つるえ、

式ぬさのちるゐゐふゐゐふゐゐやゐにこゐめ絶へとゆ

をてたてゆつるゐきをきてあるゐゐえんのよある

まこ川えのちゐりの秋よゆ面ゐゐぬさのゐれ

ゆゆ本ゐ　ゆゐゐんとそゐゐる式ゆゆゐれ紙ゐれば行ゐ

いこゐにゐて、紙ゐる帆ゐゆゐふとゐこふゐその書をきて

ゐゐも食いゐーゐゐ思ゐ少やあゝんゐゐゐゐ

ふ式ふゐゐ絶ゐゐたゐゐめと以人のよめゐゐ

上用ゐ遠めゐ時をゐふ行の帆ゆゐうちてゆ我

ゐれしゐ月気れとそて以前のこふつゆてゐ以ゐこと子

て人ゐと乗ゐ椎ゐゐの邪一位二ゐ

いゐゐとゐをを今ゐ人ゐとゐ遠ゐり

椎ゐゐりの神遠を宮ゐ那

ゐとゐゐゐあゐを遠鶴の神

ゐゐゐて海ゐゐ以ゐ

ゐてゐ乃のほゐり以今の

神をいゐ人ゐて其神ゆ

旅ゐゐ幸をいゐ人神

甲椎の設ゐゐゐゐ

たゐ黒老世の椎

ほゐゐゐゐゐこゐゐある時

ゐるおゐのゐゐ椎ゐり

ふとゐゐゐ帆ゐゐつゐゐ

ゐのゐゐゐゐゐゐゐゐる

ゐへー

廿七日、風あき、浪あられバ、船いさゞ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あん人ある人のまめる前

[illegible]

わる衆よりあれば[illegible]

せてこやいつごろひれば[illegible]

[illegible]

昔[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あそれとでえる

三十日、あれふりかゝるありきせざりしとき

て、秋ふうそうに[illegible]

[illegible]

奴あれば[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

毎日より、かて乗れば、二日あまり九日まるとに成り、
今は和泉のくふこさめまばあぜく物をぞ
二月新日、あしたの海あまり午時ばかりやゝ晴れば
和泉のなごと云ふより、そこきやく船のこゝへきぬふの
ごとく、風波やゝ悪敷事なく、夕方に成りて
是く桜乃色ハ黒く、碑の浪ハ雪見色ハ
藤枝と云ふ今一つ出たり、此所ハ
をこの浦と云ふより、網引きてゆくかけあひこふ

ある人のよめる歌
おくしけをこの海底たぬ月ハ、こゝをかくこと
きれうんぎん、又船乃つくに、月まてふりぬる
とあるきてゝ、おとをして、今ハ、つまてんな
月ふ人をの
をく船のかたゆる水こ重の日をよそういうゆて
見ハ、雄さりきく人の思ふゆうる雄たことる
こゝを花ハ、船乃かくゝりいてゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うつたへ人をとゝのふる事

うつたへ人は乳母のやうなれども、子をもあるべき人のあやしく分めきて思いるるかとて紀ぶせれば、なほ乳母にあり習ひ、成ふ浦あたちそと人々、乳母もまたに成るまゝ、ありて世間ことに今一かなんもれみて、あそこ所者、京の此てくるもつとびのあるまたあほ日とをのよあるる事

成るる風中し男をあやふくにかめさへふ

浦とえゆうんといひてやくあひふん浦といふ所の

松原あり、ひろくて濱邊をしあり、何よりのあそびをこ

きてある人のよあるる

今ゝてそ永をも思ふる所に月の松りさ枕

ふれば弱ふり、あにおもしへ今母公自ら時ふる所

まばよめる

今ゝてそ永をも思ふる所に月の松りさ枕

ふれば弱ふり、あにおもしへ

今ゝてそ永をも思ふる所に月の松りさ枕

ふれば弱ふり、あにおもしへ

さしよせて八せよの浦ふ

ふへ——ここてハてやそ

いとゝ

但の浦ふ船さしよせて見れば、子をもあるべ——ありやと

問てみべくとゝ人うつとふ船れちんとあるあて

あるさん地ふ——やをめて人日ふるちうまてん

とゝるべし、かくして、ゆめつゝ、まことあひ、あひ
ゆくまく風吹てゞけぬるまへ、ちとせきに、はきこゝ
ろ、ゆくしくうちえめたべし、掘とのいとく世住
吉の明神ハ、俗の神なり、ほうきもの掃おきたるゝん
とハ今めく、此ときぬきたいやはなれ、ぬきたいまれも
いまゝこゝ、ぬきたいやはなるかくたいまれ
ゝハ、風やうて、やまふいやたちて、風はのあや
うれば、掘をみいそくぬきふハ、はんのゆゑ、ハ

ゝゝもかりゝ、ゝかうれと、思たるゝべきこと
附結ぶゝりの紙板たゝき、板たゝとゝ、ゝ
もゝとあり、まゝ今のゝ、たゝ、ゝ、ゝ、ゝ
ゝ以ゝに、ゝこゝて、ゝて、ゝ、ゝ、ゝ
あゝ、たゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ
ゝゝれば、ゝちをゝ、ゝれば、ゝちつけゝ、ゝ、ゝ
附後のゝうゝとあり
板まゝ今のゝゝゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ
ちゝゝる、ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いろはにあてかーはもうはるしぬるをわかよたれそつねならむうゐのおくやまけふこえてあさきゆめみしえひもせす

をこそはこんつまき、椿とのんしハ林のれんりゑ（扶をちりゆきあり）

育みをたくーのわとはいそく雑仮の体と歌て

風ふいぬ、そふ人と、女をとあきしもの（扶妻おとこ所おとこふ女とあり未考のこと）

をこひとるをあてく、侍るをふこ川ゆ、かれ多薬

の洗濯の為けおわいこ、敬直てゆりぬとゆるをふ

ゆえて、拡所ちりかーをもこけて（未所もこけ世て　ちり扶今のこと）かくそ

いへば

いろはうつる、人とあり

つるとゝ多ゆ川ー

◎こきそけの扶けゝ難の字

ゆて者をけめてけゆ川ー

いかーかとゝいふ世をあるなりけるとうる者をきそ

けてみるゆ東をあり、いと興ひのわのある人の人を八人あ

やーが除こまとの為ふこちるやも船者ゝてめてふ

れ多ひーたうへ足ーこうわよ仮をもある孔どいそ除

附丹所ゆ結ふてこ多ゆ（ゆこあ世ーある）

ふ表丹所ゆ結ーて（不扶ふこ世交ふゆ）

廿日多伊風ふ船へたちて志紀のわるゆ川のあひて

あやこわつこ多船の結るゆいとうこーかるあひこ

ふ丹多東の病者ゆとまゆ、ちゝーき人まそかう

病者を表よやまうひて

仮名をけたれどふ丹やう

ふさゆもちこまかんう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

せちらまれバいをまちひぢ

九日ハ[illegible]ふ時ハ[illegible]ふ[illegible]

附のちとしゝとあり 川ハ[illegible]ハ今のこゝ

さあしふ如田のとあるとのあれの和といふあり 附あれの とい系

[illegible]をとあり ハ[illegible]ハ今ハ[illegible]

て松えきの和るに[illegible]なきの[illegible]といふ和をえたてゝ

附ゐきの[illegible]とあり ハ[illegible]ハ今のこゝ

おそ[illegible]ゐ[illegible]を[illegible]ハ[illegible]

ども[illegible]中ハ[illegible]ハ[illegible]

れむり[illegible]名たりくきえ[illegible]

ま故五[illegible]

ばら[illegible]

[illegible]いま[illegible]

[illegible]代[illegible]

[illegible]

[illegible]ひて[illegible]

程まわりなる、といひてそ、やがて近つをよろこび
侍れば、かゝる人々の中ゝ京よりまゐれり時よりお
ほもおりきゝ侍りてそ、ようゑる物とあり
あるこゝろ人船のやうなるものをいきたる物
はりて、こまをうて、昔のゑの毋やきふ者をて
なりしもうつりてかゝる人のゑをあはせて
取てのちやすとひてそ泣ゑ者之をきていで
あんかうやうるゆゑおむとて、あるまうさるべし、

そもゝ思ふ、ゆゑ人ぬ時ゝ思ふ
宮ゆ野ゝ宮ゆ野ゝ思ふ（付やまとあり 抄本今ゝめり）
十月、さゝ原の中に住て詠ずる
十月、ゑ山ゝ里にやゝ（付ゑ山ゝとあり 抄本今ゝめり）かゝて、さて
住ゑ里ゝ所のうゝふ山のゝこれるをゝて人まへばやハ
ゑ社ゑ者ゝ所、れをきゝそよろひて（抄本ゑ者ゝ 抄本ゑ者ゝ）
たてゝ住る、嵯峨の橋ゝんぬれきゝゆかきゝ所、ゝに
相模ゝの所ゝゆ、ゝそ——（付ゝとめてとあり 抄今ゝ）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十二日、山崎より舟にて[illegible]

十三日、舟にて[illegible]

十四日、雨ふる、京へくるとあるべし

十五日、ふる、車にてきこうり[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十六日、ふる、夕つかた[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ある一ところ、家もあるべきまでなり、立て
れば、はるかに見る時、人とかくみるるこれまあべるを
とて、（付まこれ中元のこと）（とり秋分のこと）とるにおいて、京もいと遠
ば、我きこしめせばとふ月いそぬ桂川月の影さえ
そわたる人の心のそこく、桂川もあ祇園清流
さてにかえさりとおもひてある人のまるこの
久しう月まおもしるかつら川波をうけも
かえさりし人ある人のいへふ

天王のはるう船をうかべ桂川袖をぬでも
ぬるるのみなる人のあるる
かつら川見わたんとて、おもひ浦さみ
流るべらなり、こやのうれさあり小ふもあり
我ぬれわ、紅葉ひけて、ぬれ（枝れいが三ヶ）（ふ年はまこと）あるこれ元の茶
入ちてうれし、あるこりて川上月あるれいと
よしみさまなるこりしもまして家ひて
ちかもとやぬれる（枝まこれ中元の三ヶ）（ふ年はまこと）あるを歩き

清人の人もあれる事より中垣をあれ元川
家のやうあれハの枝みてあ川の事あり池さ来ハた
ようにそたこの絶えたえさせそりこよいかふいと
宣たふそのもいえせて、いとをつくくもれわし
人をハせんとをさて池ゑんいてくれやり枝ける
西あり わとり松もありき、西とせハ、をのうちに
子とせやるるうん、そこ、ふくあり ふり今
おひる枝やもしれる、ゆるくこふ気みられる

あそれとそ人こいふ思ひそはことれ思ふ
きっうちふ式をそうれ、をん事のまもも
よかんふ森ハいそハ中き所人も塔ふいてきて
枝くしふ枝ふたりて かるうちふ枝ハ事こえ
ふしてひそふ人れる人とふ塔ふ
うれもかんふぬをの事我君中松のをを
こるふ中さとそいふ枝あるをやうん
かくちん附赤ふ枝ふりの事

尺人を稽古ちと色こゝろ少なかりき
見れ草やうすれてくちをさこゝろお
ゐれと、たゝくさまと、ゑきかくれ堂ぞやそん、

和田彩枝子

出仕の花の枝折